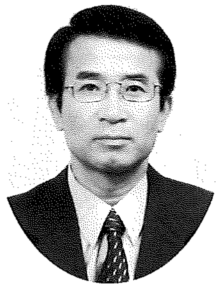
Volunteer Network

松江 企業ボランティア ネットワーク会議

No23 2012
平成24年3月

企業ボランティア
松江ネットワーク会議事務局
松江市千鳥町70 松江市ボランティアセンター内
TEL 0852-27-8388　FAX 0852-24-1020

「東日本大震災　松江・島根支援協議会」による震災支援事業への参加・協力を



企業ボランティア松江ネットワーク会議
会　長　飯　塚　亮　一

平素は、企業ボランティア松江ネットワーク会議の事業推進に対し、格別のご支援・ご協力を賜り深く感謝申しあげます。

東日本大震災から1年が経過し、改めて被災地への継続した支援の必要性と、1日も早い復旧・復興を願うところです。

松江市では、新しい公共の場づくりのためのモデル事業の指定を受け、昨年12月「東日本大震災　松江・島根支援協議会」が設置されました。当会議へも協力依頼があり、参加・協力することといたしました。松江での災害時に備えた支援分担および被災地に向けた経済的支援などの役割が期待されていますので、会員の皆様には震災支援事業への参加・協力に、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成9年にボランティアを通して企業等の社会貢献活動の振興を図ることを目的に、結成された当会議も本年11月で結成15年を迎えます。その間、会員の皆様には各々の事業所の活動として社会貢献活動を積極的かつ継続的に実践され、その活動は地域に根差したものとなっています。当会議では、今後も、情報交換と会員相互の交流を一層促進するとともに、企業等のボランティア活動の普及・啓発に努め、地域の発展に寄与できるよう努めてまいりますので、より一層のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

第63回 歳末たすけあい松江市民余芸大会への協力

平成23年12月17日（土）毎年恒例の歳末たすけあい松江市民余芸大会が島根県民会館で開催されました。本会として参加及びチケット販売に協力いたしました。また、企業ボランティア松江ネットワーク会議より山陰合同銀行混声合唱団が出演され、市民の皆さんに喜んでいただきました。

入場券販売実績
77枚
138,600円

ご協力、大変有難うございました

新しい公共事業「東日本大震災　松江・島根支援協議会」へ参加

「松江・島根支援協議会」は平成24年1月より、県の新しい公共（震災支援）事業で採択を受け、東日本被災地および被災者の支援、松江をはじめ島根県内に避難されている方々の支援、そして松江をモデルケースとした災害時の官民共同支援ネットワーク再整備を活動の中心に置き活動しています。

企業ボランティア松江ネットワーク会議も構成する団体の1つとして、参加・協力しております。

今後も「松江からでも、誰でも、できる支援で、絆をつなぐ。」をテーマに活動をしている当該協議会に参加、協力してまいります。

第7回 松江市ボランティアフェスティバル

広がれボランティアの輪～私にも、きっとできることがある～

平成24年3月25日（日）ボランティア活動の啓発や、あらゆる世代のふれあいと交流、ボランティア活動者みなさんの情報交換を目的に第7回松江市ボランティアフェスティバルが松江市総合福祉センターにおいて開催されました。企業ボランティア松江ネットワーク会議も主催団体として協力いたしました。

事務局体制について

松江市社会福祉協議会の人事異動に伴い、11月1日よりボランティアセンターの事務局体制が変わりました。

松江市ボランティアセンター所長	目次　宗生
専任	岩本　佳久
	梶　美知子

引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い致します。

新規加入会員のご紹介

（H23.7～H24.3まで）

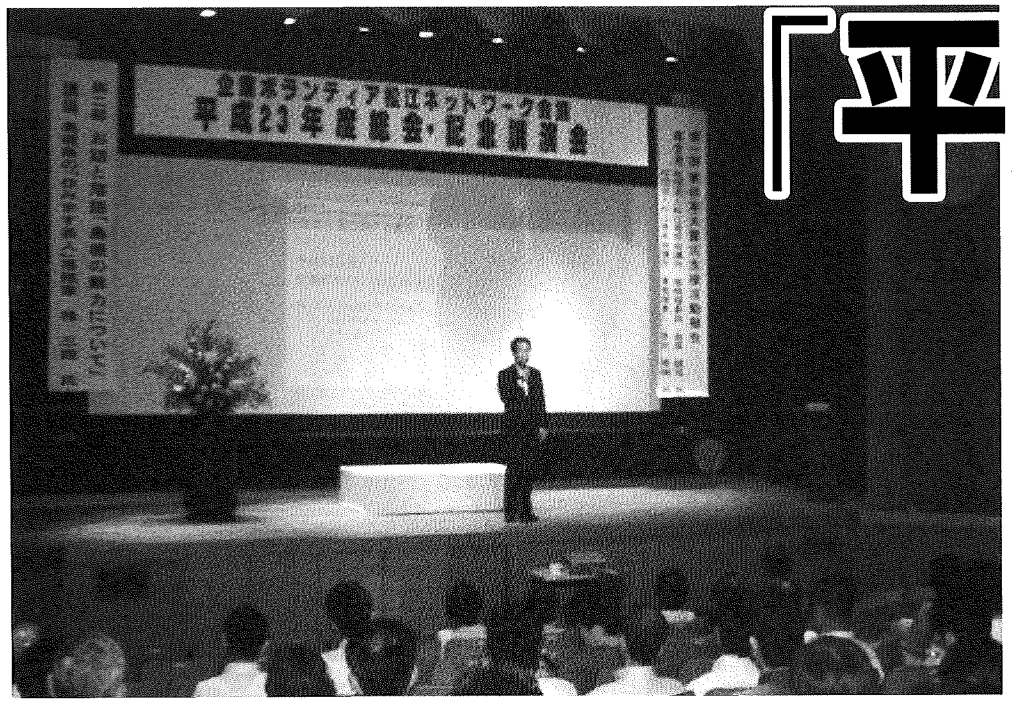
《一般会員》☆（財）中国電気保安協会様
島根支部 支部長　寺井　繁幸

《個人会員》

☆佐藤　靖夫様	障がい者就労支援事業所 ピー・ター・パン
☆中西　泰敬様	（株）ガイアートT・K 島根合材工場　工場長
☆酒向　武様	（有）加茂工業 代表取締役
☆高丸　輝生様	（株）エネルギア・ライフ&アクセス 松江営業所　所長
☆小谷　忠延様	（有）ナイスケア小谷企画 代表取締役

「平成23年度総会」開催報告

企業ボランティア松江ネットワーク会議



平成23年9月20日(火)、松江市総合福祉センター4階教養室を会場に平成23年度総会を開催いたしました。

参加会員は21名で、委任状の提出は61名でした。

平成22年度事業並びに決算報告、平成23年度事業(案)並びに予算(案)を協議の上ご承認いただき、今後2年間の新役員体制で新たな取り組みをスタートすることになりました。

総会後は会場を大ホールに移し、記念講演会を一部・二部構成で開催しました。一部では、松江青年会議所より東日本大震災支援活動報告をいただきました。また、二部では、落語家で島根県の住みます芸人　桂三段氏を講師にお迎えし、広く市民のみなさまにも呼び掛け落語とお話しの会を持ち、楽しいひとときを過ごしました。

お話しと落語　落語家　桂　三段氏

東日本大震災 支援活動報告

第1班 平成23年4月28日(木)～5月2日(月)

社団法人　松江青年会議所
専務理事　本庄　雅樹

まずは、この度の震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り致しますとともに被災された方々及び関係者の皆さまに対して心よりお見舞い申し上げます。

青年会議所とは日本全国に704存在し明るい豊かな社会の創造を目的とし日々活動しております。

今回私達が災害復興支援活動を行った場所は岩手県下閉伊郡山田町です。山田町は三陸海岸に面した水産業の盛んな町で、主な著名人では第70代内閣総理大臣を勤められた鈴木善幸氏の出身地であります。

初日は山田町災害ボランティアセンター本部で受付をし、全国各地より届く支援物資の仕分け作業を行いました。大学生のボランティアと一緒に仕分け作業を行いましたが、全国より届く支援物資の数の多さに驚かされました。

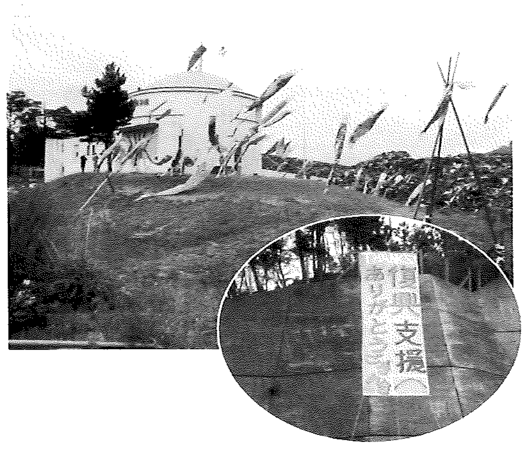
2日目も山田町災害ボランティアセンターで受付し作業に取り掛かりました。午前中はアパートの泥出し作業を行いました。津波による浸水で室内中泥が入り込んでおり、スコップを使い泥を外へ出し、使えなくなった電化製品や畳は重機で運べるように道路の近くまで運び出しました。

午後は瓦礫の撤去作業を行いました。民家の横には6メートル近い堤防があるのですが、津波は堤防を乗り越え家屋を押し流してしまいました。瓦礫の撤去を行っていると写真や預金通帳等が見つかり、普通に生活していた様子が感じられました。作業中に被災に遭われた家の方とお話をさせていただきましたが、毅然とした態度でいらした事を今でも鮮明に覚えております。

今回の災害復興支援活動を通して『自然の驚異』『人間の無力さ』『人と人との絆』等たくさんの事を学びました。一日でも早い被災地の復興を切に願い、自分なりの支援を続けていきたいと思います。

第2班 平成23年5月25日(水)～5月29日(日)

社団法人　松江青年会議所
直前理事長　金見　誠司



私達第2班は岩手県下閉伊郡山田町へ災害支援活動に行きました。

第2班のメンバーは総勢20名で構成され、作業内容は「鯨と海の科学館」での瓦礫・土砂の撤去、清掃や海藻標本の水洗い等が主たるものでしたが、ボランティア初日の27日(金)午前中は3名で山田町立大沢保育園へ赴き、不足している物資を届けました。子供達がどの様な気持ちでいて、どの様な反応をするのか大変気掛かりでした。しかし、私達が玄関に到着した途端、大きな声をあげ、瞳を輝かせながら私達の方に駆け寄って来てくれました。子供達を見たとたん安心したと同時に何とも言えない切ない気持ちが一方でこみ上げてきました。そして、その子供達はお礼に素敵なダンスを踊ってくれました。また園長先生や教頭先生などとお話しする時間を頂きましたが、一切愚痴も溢さず、冷静な語り口で「本当に皆さんに良くして頂いて感謝しているし、困っている事など無い。」と前向きに言っておられた姿が大変印象的でした。そして、27日(金)の午後からは3名が合流し「鯨と海の科学館」へ行き、螺旋階段下のせまい場所からしゃがみこみながら瓦礫・土砂類を掻き出して台車等で外まで運んだり館内の水洗い、掃除をしました。もう一方では瓦礫・土砂類に混じっていた科学館で収集・保管されていた海藻類の標本ビンをブラシで水洗いする、作業を行い、28日(土)も同様の作業が続きました。この「鯨と海の科学館」には商業捕鯨最後のシーズンに獲られたマッコウクジラの大変貴重で大きな骨格標本があり、幸いにもギリギリのところで津波の被害を逃れたようです。山田町の人達は、この「鯨と海の科学館」を"強さと復興のシンボルに"と考えておられ、建物の周りは一面瓦礫の山でしたが、5月ということで多くの鯉のぼりをその中に棚引かせておられ、その姿に山田町民の復興への力強い決意を感じました。

自分達は2日間の支援活動でしたが、毎日この現実と向き合わなければならない被災者の方々の気持ちは計り知れず到底知り得る事もできないと改めて感じました。想像もつかない程長い年月がこの度の被災地の復興には必要であり、私達は一度のボランティアや一度の物的支援、義援金で自己完結し、満足して終わるのではなく、これから先も少しずつでも、被災地・被災者に対する気持ちを向け続けて、忘れない事、またそれぞれができる事をできる範囲で続けていく事が大切だと思います。